## 地域振興に役立ててほしい

### 北海道行政書士会室蘭支部から寄付

9月9日、北海道行政書士会室蘭支部から10万円の寄付がありました。

北海道行政書士会室蘭支部では、設立60周年を迎え、コロナ禍で式典などが開けないことから、豊浦町を含む西胆振の3市3町へ地域振興のためにと寄付されました。

なお、行政書士会では、毎月第2土曜日に中央公民館にて無料の相談会を開催していますので、お気軽にご相談ください。

▲ご寄付ありがとうございました。

## 小幌駅とコラボ

### 共同募金寄付金付きピンバッジリニューアル

▲詳細につきましては、共同募金委員会（83-2662）へお問い合わせください。

赤い羽根共同募金のコラボ寄付金付きピンバッジが2022年版にリニューアルして製作されました。

限定500個で町内のピンバッジ募金実施場所にて１つ500円の寄付により受け取ることができます。地域福祉活動や災害時のボランティアに活用されますので、ぜひご協力をお願いいたします。

## 地域おこし協力隊の活動日記

文／齊藤　竜彦　隊員

協力隊として活動できるのもあと数か月の齊藤です。卒業後は「いちご農家」として輝いている自分たち夫婦がそこにいる！そう考えると楽しみで仕方ありません。

その「農家」という業、世間的には「きつい　汚い　儲からない」など、負のイメージが強い業界のようです…。

さて、私は小学2年生から中学3年生、社会人になってから20歳～30歳と約16年にわたり空手を学んでいました。思えば人生の中でかなりたくさんの時間です。空手を学んでいた話をすると、奥手な性格と小柄な体格だからか、驚かれる方も多いです。そんな私もはるか昔、小学生の頃はかっこいい突きや蹴りをする空手家の姿を想像してワクワクしながら練習に打ち込んでいました。空手のイメージといえば「怖い　乱暴そう　喧嘩をする」などこちらも負のイメージを持たれる方が多いようです。が、空手は「武道」なのでそんなことはなく、礼儀作法や相手を尊重し、自分の心を豊かにする心構えを学んだりします。

空手の言葉には「押忍」（押して忍ぶ）という言葉があります。耐え忍ぶ、我慢するような意味でしょうか。練習中の返事はすべて「押忍」です。豊浦町に移住して2年と半年。農業の研修を始めた最初の年はこれまでにない大雪と言われるほどの雪に覆われ、2年目の冬はさらにそれを上回る大雪で研修施設のハウスがつぶれかけ、今年の夏は大雨による川の氾濫で研修施設が水浸しになり、先月は台風接近でハウスの風対策をしたりと、自然を相手に勝てない試合をひたすら耐え忍ぶ日々。これら自然を相手に「押忍」の精神で苦難を乗り越え、一人前の農家を目指し、さらには農業界のイメージをさらにいいものに変え、かつて子どもの頃かっこいい空手家に自分自身が憧れたように、若い世代の人たちが農家というものに憧れを持ってもらえるようにもっともっと発信していきながら頑張っていきます！

▶左15年前：道場内
右現在：　ハウス内